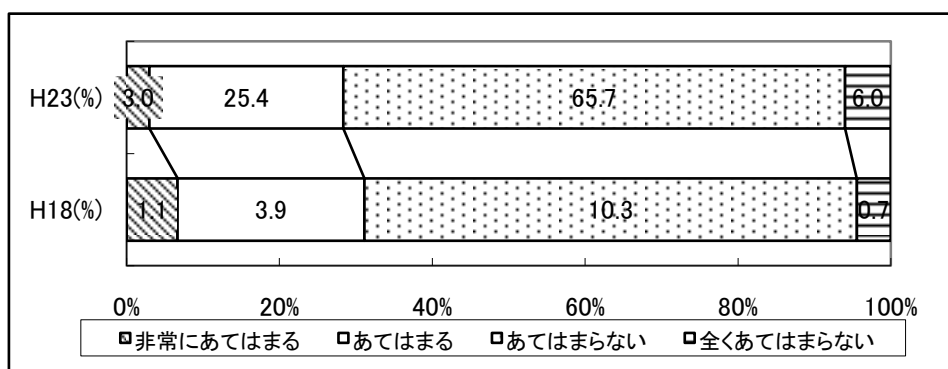


〈学部卒業生〉

Q70 シラバスに改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	3	2
あてはまる	11	17
あてはまらない	29	44
全くあてはまらない	2	4
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	1.1	3.0
あてはまる	3.9	25.4
あてはまらない	10.3	65.7
全くあてはまらない	0.7	6.0
計	16.0	100.0



【自由記載】

もっと軽いといいと思います。

わかりにくい

シラバスの内容は形式的なものがあり、授業の内容と必ずしも一致しないものがあった

【評価と今後の対策】

シラバス改善の必要性については平成18年度と比較し28%と減少が見られた。しかし、内容が形式的で授業の内容と一致しないや、大幅に変わっているなどの声もあった。

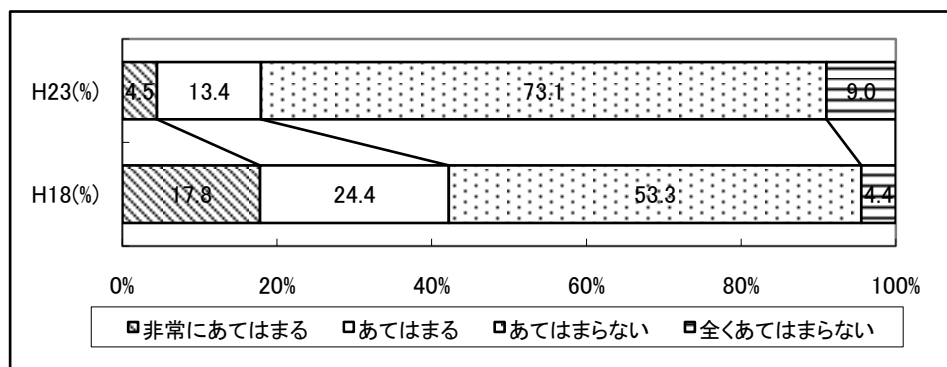
前回も同様の意見があったことから、変更がある場合はシラバスの配布を周知徹底する必要がある。

〈学部卒業生〉

Q71 履修登録の方法に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	8	3
あてはまる	11	9
あてはまらない	24	49
全くあてはまらない	2	6
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	17.8	4.5
あてはまる	24.4	13.4
あてはまらない	53.3	73.1
全くあてはまらない	4.4	9.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

1つ1つ科目を書くのではなく、マークシートのように塗りつぶすだけとか簡略にできたらよいと思う

ほとんどが必修科目なので、最初から必修科目だけは記入されていたらもっと楽だったと思う。必修登録漏れ防止 2人

前・後期分割してほしい。

1度ガイダンスに参加した後に履修を決めたり、登録変更できるようにしてほしい 2人

【評価と今後の対策】

履修方法の改善の必要性については平成18年度と比較し18%とかなり減少が見られた。選択科目のみの登録や前後期に分けての登録、授業をうけて後の登録、科目を塗りつぶす方式等の要望が上がった。

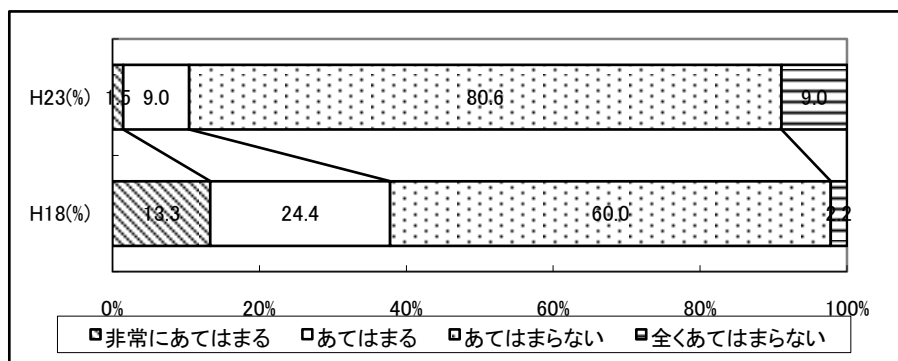
前回とほぼ同様の改善の必要性があがっており、さらなる登録方法の検討が必要である。

〈学部卒業生〉

Q72 履修指導方法に改善は必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	6	1
あてはまる	11	6
あてはまらない	27	54
全くあてはまらない	1	6
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	13.3	1.5
あてはまる	24.4	9.0
あてはまらない	60.0	80.6
全くあてはまらない	2.2	9.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

【評価と今後の対策】

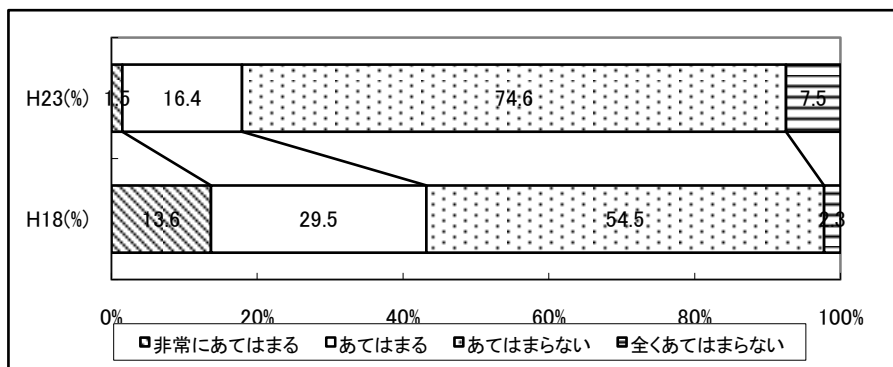
履修指導方法の改善の必要性については平成18年度と比較して10%と極端に減少し、意見も特になかった。

〈学部卒業生〉

Q73 時間割に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	6	1
あてはまる	13	11
あてはまらない	24	50
全くあてはまらない	1	5
計	44	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	13.6	1.5
あてはまる	29.5	16.4
あてはまらない	54.5	74.6
全くあてはまらない	2.3	7.5
計	100.0	100.0



【自由記載】

きつい

時間割が変更になると困った

【評価と今後の対策】

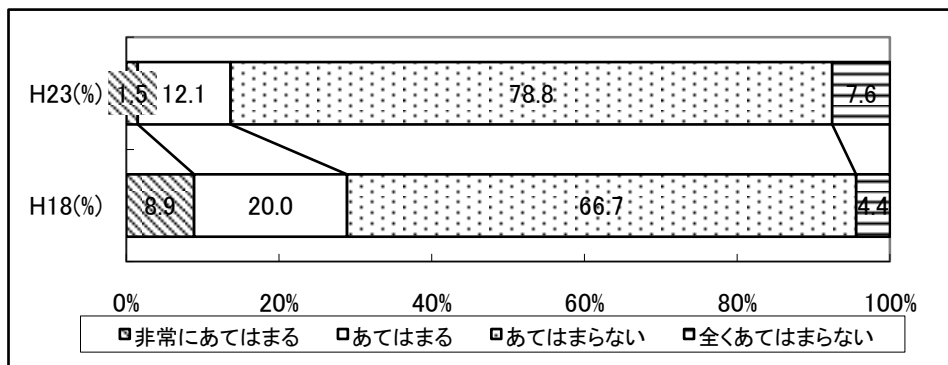
時間割の改善の必要性については平成18年度と比較し18%とかなり減少した。意見として、4年次後期の倫理学の配置変更の希望があった。

〈学部卒業生〉

Q 74 時間割の履行に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	4	1
あてはまる	9	8
あてはまらない	30	52
全くあてはまらない	2	5
計	45	66

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	8.9	1.5
あてはまる	20.0	12.1
あてはまらない	66.7	78.8
全くあてはまらない	4.4	7.6
計	100.0	100.0



【自由記載】

時間割が変更になると困った

【評価と今後の対策】

時間割の履行の改善の必要性については平成18年度と比較しかなり減少が見られ14%であった。急な変更への改善の声があった。

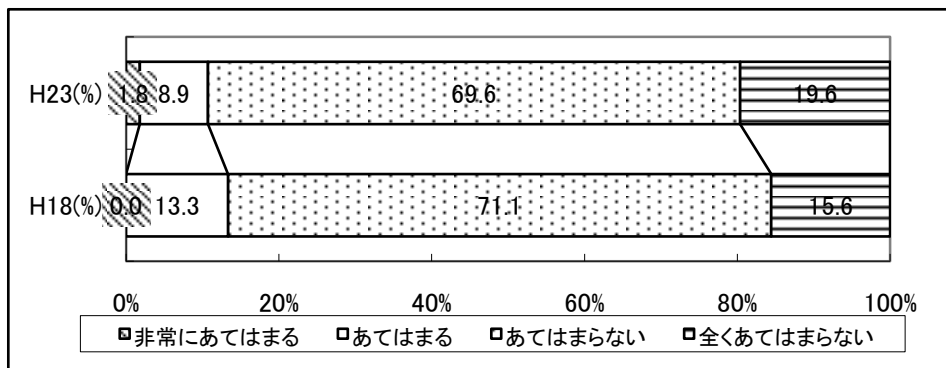
急な時間割変更については講師の都合が関係していることから、教員への周知が求められた。

〈学部卒業生〉

Q75 卒業単位数に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	0	1
あてはまる	6	5
あてはまらない	32	39
全くあてはまらない	7	11
計	45	56

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	0.0	1.8
あてはまる	13.3	8.9
あてはまらない	71.1	69.6
全くあてはまらない	15.6	19.6
計	100.0	100.0



【自由記載】

【評価と今後の対策】

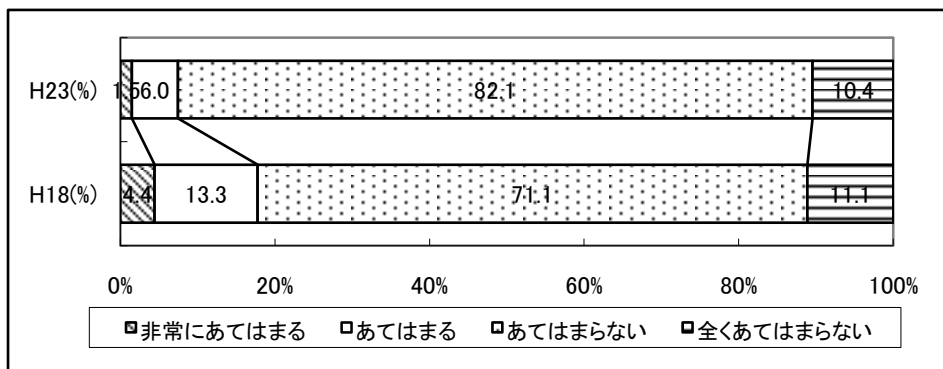
卒業単位数の改善の必要性については平成18年度と比較してやや減少し11%であった。特に意見はなかった。

〈学部卒業生〉

Q76 期末試験の方法に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	2	1
あてはまる	6	4
あてはまらない	32	55
全くあてはまらない	5	7
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	4.4	1.5
あてはまる	13.3	6.0
あてはまらない	71.1	82.1
全くあてはまらない	11.1	10.4
計	100.0	100.0



【自由記載】

【評価と今後の対策】

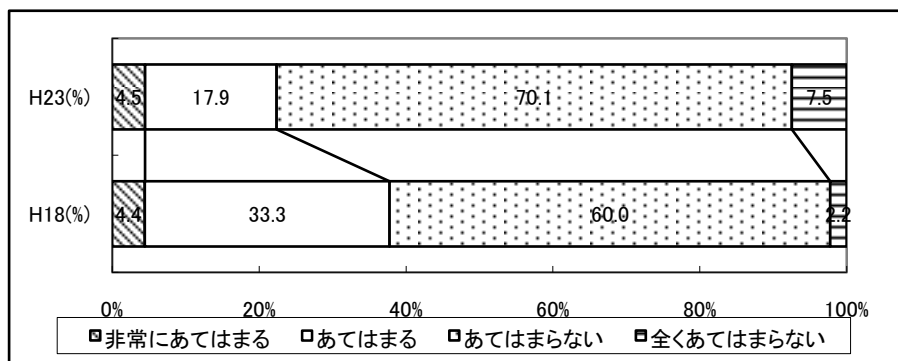
期末試験方法の改善の必要性については平成18年度と比較し7.5%とかなり減少し、特に意見は見られなかった。

〈学部卒業生〉

Q77 授業評価の方法に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	2	3
あてはまる	15	12
あてはまらない	27	47
全くあてはまらない	1	5
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	4.4	4.5
あてはまる	33.3	17.9
あてはまらない	60.0	70.1
全くあてはまらない	2.2	7.5
計	100.0	100.0



【自由記載】

マークシートの内容があまり具体的でなく、評価しづらい内容だった
 授業最終日で時間がないときに、非協力的な人もいる
 意見が反映されていると感じられるようにすべき

【評価と今後の対策】

授業評価方法の改善の必要性については平成18年度と比較し22%とかなり減少していた。意見として、マークシートが具体的でなく評価しづらい、評価の時間が少なく非協力的な人がいる、意見が反映されないなどがあつた。

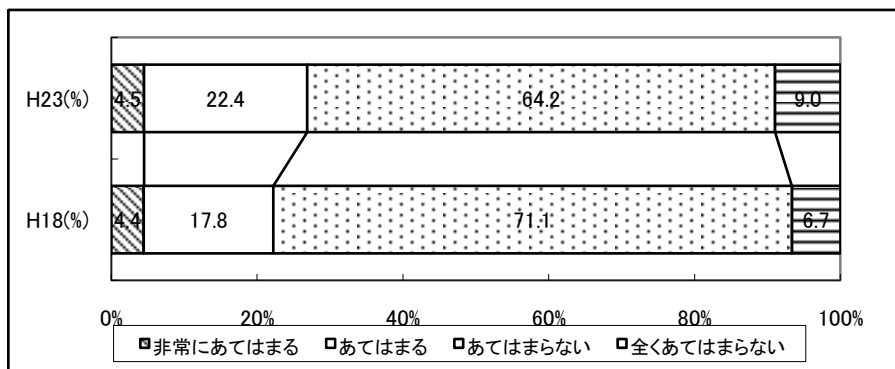
初回から同じ授業評価であることから評価項目の見直し、評価時間の確保、意見の反映の仕方について検討することが必要である。

〈学部卒業生〉

Q78 実習場所に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	2	3
あてはまる	8	15
あてはまらない	32	43
全くあてはまらない	3	6
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	4.4	4.5
あてはまる	17.8	22.4
あてはまらない	71.1	64.2
全くあてはまらない	6.7	9.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

住んでいる地域に近くにしてほしい。遠方になるなら移動の補助をしてほしい 4人
もっと場所増やしたほうがいい
もう少し、看護師に協力してほしい。こわかった。

【評価と今後の対策】

実習場所の改善の必要性については平成18年度と比較し27%とやや増加していた。実習施設への遠距離からくる経済的負担や、交通手段、駐車場の整備等を挙げている。

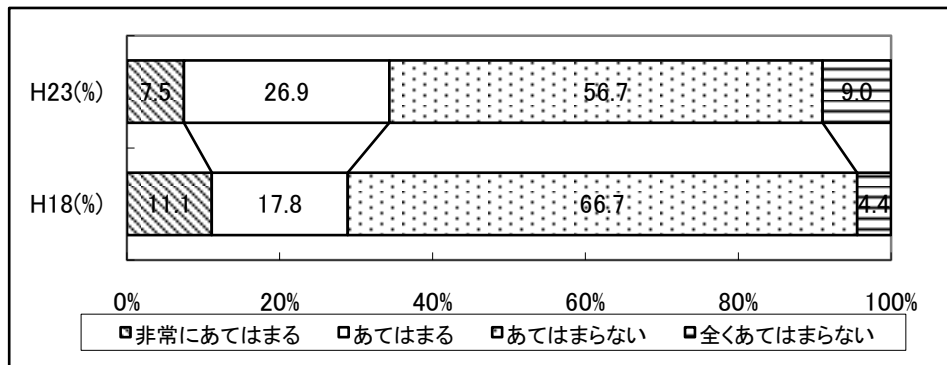
前回と同様、実習施設の遠距離からくる負担感がある。質を担保しながら近隣の实習施設確保も努力していることから、その結果を追跡する。

〈学部卒業生〉

Q79 実習配置方法に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	5	5
あてはまる	8	18
あてはまらない	30	38
全くあてはまらない	2	6
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	11.1	7.5
あてはまる	17.8	26.9
あてはまらない	66.7	56.7
全くあてはまらない	4.4	9.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

住んでいる地域に近くにしてほしい。遠方になるなら移動の補助をしてほしい 4人
配置選択方法を改善する検討が必要。公平、平等は難しいかもしれないが、離島は自己負担が生じる。

【評価と今後の対策】

実習配置方法の改善の必要性については平成18年度と比較し34%とやや増加が見られた。その理由として近距離への実習施設配置や移動への援助、他のグループメンバーとの交代を可能にするなどの要望があがった。

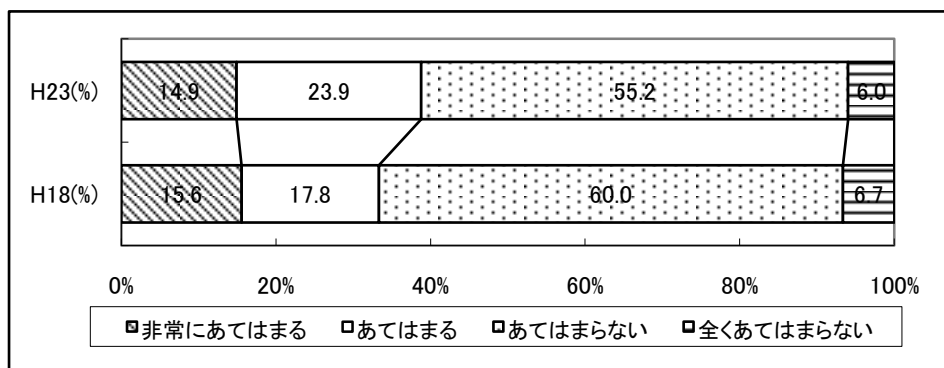
実習配置に対して改善が見られず、話し合いの場を持って相互理解につとめ折り合いのつく方法を検討する必要がある。

〈学部卒業生〉

Q80 国家試験対策に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	7	10
あてはまる	8	16
あてはまらない	27	37
全くあてはまらない	3	4
計	45	67

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	15.6	14.9
あてはまる	17.8	23.9
あてはまらない	60.0	55.2
全くあてはまらない	6.7	6.0
計	100.0	100.0



【自由記載】

対策を始めるのを3年の終わりごろからにし、機会をもっと増やして教員も参加(協力)してほしい 3人

卒論を10月にしてほしい。今のように面談とかはなかったのが良かった。今の面談とか全く不要だと思う。

時間がない

必要!!!いい人を真似るべき。その情報が不足している。

教員による圧力、無理強い。大学の評価のことしか考えられない行動、もっと生徒に寄り添って指導すべき

実習や卒論の時期などのため、対策に取り組める時期に限られる。3年次後期くらいから、セミナーなどあってもよかった。

【評価と今後の対策】

国家試験対策の改善の必要性については平成18年度比較し29%とやや増加した。その理由として3年次からの取り組み、学生に寄り添った指導、モデルになる人の情報提供などの要望があった。

